

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第74回

イチジク



イチジクは原産地が小アジアでクワ科に属する低木です。漢字で書くと無花果で、花は果実の中に詰まっており、しかも雌花だけなので種子が出来ない仕組みになっています。

広島県の田舎では唐柿(とうがき)と呼んでいましたが、これは1600年代初期に中国から渡来したことによります。ヨーロッパでの歴史は古く紀元前3千年頃には栽培がスタートし重要な果物の位置づけがなされていたようです。



イチジクはクワ科ですので果実や葉は肉類を柔らかくしますので料理にも重宝される果物でもあります。また、イチジクは薬用としても機能してきました。果実を1日数個食べると緩下作用があり、乾燥葉をお風呂に入れると婦人病や神経痛に効果があります。茎や葉から白い乳汁が出ますがこれはイボ取りや水虫、痔の薬とします。また、栄養価が高いことから乳幼児のミルク代わりにされたと言われています。さらに『中薬大事典』には各種腫瘍に有効との記述もあります。最近の論文を調査しますとイチジクの抗認知活性が認められています。スコポラミン投与により認知ラットを作成し、ピラセタムをポジティブコントロールとして果実のアルコールエキスを投与し続け約1か月後に記憶学習能を調査したところ、果実エキスはポジティブコントロールと同等に記憶学習能を高めました。

本画は1800年Vietによる作品です。